

公の施設の指定管理者における業務状況評価

平成23年9月16日

施設名	香北青少年の家	所管課室	生涯学習課
-----	---------	------	-------

1. 施設の概要

指定管理者名	(株)香北ふるさと公社
指定期間	平成21年4月1日～24年3月31日
施設所在地	香美市香北町吉野1300
業務内容	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用の許可に関する事 ・施設及び設備の維持管理に関する事 ・青少年の活動が安全かつ円滑に行われるための支援に関する事 ・主催事業を計画し、実施すること <p><平成22年度主催事業> 地域子ども交流会(1泊2日) 子どもフェスティバル いきいき合衆国で遊ぼう!(1泊2日) 日帰りだよ!親子忍者大会体験 集まれ!!未来の麵職人 「日本の文化に親しもう」おもしろ年賀状アート 「日本の文化に親しもう」クリスマスリースor門松Get!大作戦 子どもフェスティバル 忍者大会(1泊2日)全8回 青年リーダー研修(第1回～第6回)</p>
施設内容	青少年教育施設として、「自然とのふれあい体験、共同生活体験及び体験的な学習活動などを通じて心身ともに健全な青少年の育成を図る」という設置目的に基づき運営している。 構造:本館 鉄筋コンクリート2階 延べ1,002.65㎡ 別館 鉄筋コンクリート平屋 延べ295㎡ 研修棟 鉄筋平屋 延べ300.16㎡ 施設概要: 研修室 3室(定員20名,80名,120名) 宿泊室 定員121名 浴室3室 野外炊飯場 3箇所 定員300名 ランニングコース 1コース 1.7km オリエンテーリングコース 1コース 10km ウォークラリーコース 2コース 5km
職員体制	職員:所長1名 指導員5名 調理員4名 合計:10名

2. 収支の状況

		H21年度(決算)	H22年度(決算)	H23年度(予算)
収入	県支出金	35,437,000	35,437,000	35,437,000
	事業費収入	827,320	851,210	982,000
	収入計(a)	36,264,320	36,288,210	36,419,000
支出	事業費	1,115,380	1,164,584	1,362,000
	管理運営費	8,302,548	8,846,126	7,384,000
	人件費	25,119,530	24,549,499	25,939,000
	消費税	1,726,862	1,728,001	1,734,000
	支出計(b)	36,264,320	36,288,210	36,419,000
収入(a)-支出(b)		0	0	0
使用料収入		2,515,830	2,188,660	2,515,000

3. 利用実績

(1) 宿泊者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	9,234	8,429	7,068	7,352	6,913	7,799

(2) 利用団体数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
団体数	214	168	177	193	169	184

(3) 利用者数

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平均
人数	17,235	16,757	15,823	15,998	15,671	16,297

4. 業務の評価

項目	状況説明
①利用拡大のための取り組み	<p>利用拡大のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ホームページのトップに、施設のメイン事業である「忍者大会(1泊2日)」のPRをのせ、施設案内・活動プログラム・利用料金をわかりやすく掲載している。 ○施設案内パンフレットの配布先を、これまでの各保育園・幼稚園・小・中・高等学校に加えて、県内の大学(高知大学、高知女子大学、高知工科大学)や教育委員会に広げることで、ボランティア募集を含めた幅広いPR活動を行っている。 ○高い人気を誇る小学校高学年を対象とした「忍者大会」へのプロローグとして、親子のコミュニケーションを深めるための低学年向けの参加型プログラム「日帰りだよ！親子忍者大会体験」を開催し、事業の連動性を確保している。 ○香美市楠目小学校百石南子ども会6年生を送る会で、PA(プロジェクトアドベンチャー)をもとにした仲間づくりレクリエーションなどの出張事業を実施し、施設の有するノウハウを幅広く地域に還元している。 ○主催事業である「忍者大会」後のフォローアップとして、参加者・保護者の方(488名)に、振り返りの言葉と継続利用のお願いを添えて写真を送るとともに、感想・要望についての返信をお願いして、今後の企画に活かしている。 ○利用者に次回も利用したいと思っていただくために、“誰からも好感のもてる対応” “利用者への細かな目配り・気配り・手配り” “笑顔・テキパキ・誠実・スマートに・臨機応変に・勉強” をモットーに職員全員で取り組んでいる。
②利用者へのサービス向上のための改善策	<p>利用者へのサービス向上のために、以下の点で工夫が見られた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「日帰りだよ！親子忍者大会体験」は、昨年度に比較して応募者が倍増したことから、追加大会の開催を行うなど、利用者ニーズへの迅速な対応に努めている。 ○宿泊訓練では、利用者が「何を目的として」「何を求めているのか」を確認し、学校教員と施設指導員の役割分担を確認するための事前打ち合わせを2～3時間行っている。(前年度比較:宿泊訓練等における面談47回→63回) ○職員の資質向上と多彩なプログラム開発を行うため、プログラムアドベンチャー等の研修に職員を積極的に参加させている。 ○外部講師を招聘した管理人材育成研修を新たに開催するなど、絶えず新しい視点で、施設のレベルアップに取り組んでいる。 ○利用団体(特にスポーツ団体の合宿)の要望に沿った、地元の新鮮・安全な食材を使用した食事を提供している。

③施設の運営について	<p>施設の運営について、以下の点で工夫が見られた。</p> <p>○高知大学、高知女子大学、高知工科大学に対して、チラシ配布やポスター掲示、青年リーダー研修の開催など積極的な働きかけを行った結果、ボランティア登録者19名増(55名→74名)、稼働人数12名増(32名→44名)と、施設運営に関わるボランティアの充実を図った。</p> <p>○県の評価シートに沿った一年間の目標をもとに、それを達成するための項目毎の目標を設定し、職員が情報共有と連携を図りながら、一丸となって目標達成に取り組んでいる。</p> <p>○SWOT分析(組織の内的要因、外的要因から戦略を引き出すためのフレームワーク)、ビーイング(安心できる職場にするために自分ができること、されると嫌なことなどを書き出す)などのマネジメント手法を積極的に取り入れ、施設運営の改善に取り組んでいる。</p> <p>○清掃、浴場衛生などの確認表、予約漏れを防ぐための予約台帳など、紙ベースでのチェックリストの記入を行うことで、全職員の情報共有を図り、施設運営に係るトラブルの軽減に努めている。</p> <p>○毎年同じ時期に利用している団体からの予約漏れがないか予約台帳にメモをつけることにより、予約漏れによるトラブルを防ぐように事務処理を改善した。</p> <p>○国の経済対策による臨時交付金を活用して、本館ホール天井排煙窓設置工事、常夜灯設置工事、屋外調理台改修工事、屋外階段及び椅子等修繕、宿泊室ハンガーパイプ購入等を行った。</p>
④利用実績	<p>○景気低迷による社会人(会社や各種団体)利用の減少が要因となり、平成21年度と比較して、宿泊者数は439名の減少(▲6%)、利用団体数は24団体の減少(▲12%)となっている。</p> <p>ただ、利用者数は、幅広いPRや出張事業等により、327名(▲2%)の微減にとどまった。</p>
⑤収支の状況	<p>○宿泊者数、利用者数とも減少したことにより、平成21年度と比較して、使用料収入は327千円の減収となった。</p> <p>管理代行料は、予算額を全額執行した。</p> <p>平成22年度予算額 35,437,000円</p>
<p>総合評価</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p>	<p>○施設の目標がしっかりと認識されており、運動性のある「忍者大会」「日帰りだよ！親子忍者大会体験」を開催するなど、施設の強みを活かした効果的な事業展開を行っている。</p> <p>○地域の小学校で出張事業を行い、施設の有するノウハウを幅広く地域に還元している。</p> <p>○職員の資質向上を図るため、外部研修への職員派遣はもとより、外部講師を招聘した研修会を開催するなど、絶えず新しい視点で、施設のレベルアップに取り組んでいる。</p> <p>○ボランティアスタッフの積極的な呼びかけを行い、新規登録者を19名確保した。また、青少年リーダー研修の内容を見直したうえで、ボランティアスタッフの資質・指導力の向上に取り組み、独自にボランティアの育成に努めている。</p> <p>○SWOT分析、ビーイングなどのマネジメント手法を積極的に取り入れ、各プログラムの実施目的や狙いを明確にした施設の運営、利用拡大・利用者サービス向上のための真摯な取り組みが行われている。</p> <p>○今後、更なる向上を目指して、以下の取り組みを期待する。</p> <p>①現在の高いレベルを保ち、県内青少年教育施設の先駆的な役割を果たしていくこと。</p> <p>②本施設の持つ強みを県内の小中学校等に還元していくこと。</p>

【評価の目安】 A: 仕様書の内容や目標を上回る成果があり、優れた管理運営が行われたもの
 B: おおむね仕様書の内容どおりの成果があり、適正な管理が行われたもの
 C: 仕様書の内容や目標を下回る項目があり、さらなる工夫・努力が必要なもの
 D: 管理運営が適切に行われたとは認められず、大いに改善を要するもの